

石見海域漁場環境保全調査

(漁場環境保全対策推進調査事業)

井岡 久・石原成嗣・開内 洋

1. 研究目的

漁場環境の悪化が予想される水域について、その現状を把握し、資料の蓄積を図る。

2. 研究方法

(1) 調査地点及び水層

江津地先 15 点の 1・10 m 及び底層。

(2) 調査項目

水温、透明度、濁度、浮遊物質(SS)、pH、溶存酸素(DO)、COD、栄養塩類

(3) 調査日時

平成 14 年 9 月 15 日

3. 研究結果

水層 (m)	区分	水温 ()	塩素量 (‰)	浮遊物質 (ppm)	COD (ppm)	NH ₄ - N (μ g-at / ℓ)	PO ₄ - P (μ g-at / ℓ)	NO ₂ - N + NO ₃ - N (μ g-at / ℓ)
1	最小値	26.1	17.741	1.3	0.34	0.00	0.00	0.01
	最大値	26.8	18.671	13.1	1.96	0.92	0.06	1.28
	平均値	26.4	18.335	10	1.03	0.30	0.01	0.19
10	最小値	25.3	18.175	8.8	0.67	0.01	0.00	0.01
	最大値	26.2	18.609	16.6	1.61	0.99	0.04	0.16
	平均値	25.7	18.391	10.9	1.11	0.30	0.02	0.08
底	最小値	21.7	16.541	8.8	0.53	0.00	0.00	0.01
	最大値	25.2	18.692	13.3	1.45	1.45	0.08	0.26
	平均値	24.5	18.363	10.8	1.11	0.35	0.02	0.07

4. 研究成果

- COD は 0.34 ~ 1.96 ppm であり、平成 11 年度 (0.48 ~ 1.44 ppm)、平成 12 年度の調査結果 (0.15 ~ 1.74 ppm) と比べても大きな変化は無かった。
- 栄養塩類量の値にも大きな変動は無かった。
- 総合的に、近年は調査地点の水質に重大な変化は生じていないことを確認した。